

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

「卒業してからの私」

私は、専攻科福祉専攻卒業後から特養や高齢者のデイサービスなどに3年ほど努め、現在は子ども向けの福祉事業、児童デイサービス、児童発達支援事業所に勤務しています。

私が勤務している児童デイでは、社の方針で障害があったとしても、ランドセルを放り出して子どもたちが、のびのびと活動できるよう、支援をしています。また、肢体不自由な子どもの中にはいるため、幼児教育・保育科で学んだ教育的な面だけではなく専攻科福祉専攻で学んだ介護技術も活かすことができ、3つの資格をまんべんなく活用できています。

専攻科福祉専攻での思い出・卒業して良かったことは、たくさんの福祉事業や活動に実践的に関わったことです。

夏に行った「難病の子ども、頑張り共和国おいでん鳳来のキャンプ」や京都の「東樹」に集合し、子どものおかれている現状とその支援の実践的なあり方の話を聞いたこと、大学近隣にある福寿園の障害者就労支援のレストランで食べたおにぎりが美味しかったこと、専攻科で知った「うめぼしの歌」が入社初日のデイサービスですぐに歌うことができ、職員さんにびっくりされたことなど、一つ一つの体験が今現在の私の仕事のスキルとして身につけていることが、たくさんあります。

今では、国家試験に合格しないと介護福祉士の資格はとることができなくなりましたが、幼児教育・保育の資格だけではなく介護資格をもてるというのは今後、強い力と自信になると思います。

私は一つの物事に長く取り組むことが苦手です。そのため、介護系だけではなく、保育という福祉系の仕事にも勤務できたため、福祉という業界で長く仕事を続けることができたと思います。

また、保育観点、介護観点はそれぞれどちらの業種にも共通する面があり活用することはできます。現に、介護で備わった技術は今でも、保育系に活かされています。卒業して、福祉の世界に進む人ももしかしたら一般企業に進む人もいるかもしれませんが、資格はもって使ってみると強みであることを知ります(笑)

大変だなー。しんどいなー。と思ったら一旦違う業種に飛び込んで、比較し感じてみるのもありだと思うし、保育、介護交互に務めてみるのもありだと私は思っています。

専攻科福祉専攻があったことで、1年の学びで人生が大きく変化していますので、本当にありがたかった、よかったと思います。

学んだ、すべての事を知識として活かせていけていることが、すごいことだと思います。

長く続いた、専攻科福祉専攻では、病気や障害をもって生活をするのが前提で生活をしている方々との出会い、体験は、今後私の人生に何かあったときにこそ、私自身の支えになるだろうとさえ思います。専攻科福祉専攻は自分の世界観を広げることができました。そんな出会いの数々をくれた先生、本当にありがとうございました。

専攻科福祉専攻の一学生として、長く続いた専攻科福祉専攻がなくなり、先生もこの大学からいなくなり、変える場所がない感じがして寂しいです。ですが、もっと今年度卒業する学生や先生の方が寂しい思いをしているはずです。私は、もしかすると、専攻科福祉専攻の閉科は、成人式的な感じだと受け止めようと思います。こうしたことをきっかけにつながりを広げていけたら楽しいなと思います。

本当にありがとうございました。

2022年1月

13回生 多賀糸 美里